

人工呼吸器を必要とする ALS 患者の避難訓練を実施して

1. 大津市の個別避難計画作成の取り組み

災害時避難行動要支援者の個別避難計画とは、いわゆる災害弱者といわれる、一人暮らしの高齢者、要介護者、障がい者等が、災害時にどのような避難行動をとればよいのかについて、あらかじめ自ら確認しておいていただくために、一人一人の状況に合わせて作成する個別の避難行動計画です。

大津市では、個別避難計画作成推進室が設置され、避難行動要支援者の一人ひとりに合わせた個別避難計画作成を推進しています。個別避難計画とは、避難行動要支援者一人ひとりについて、災害発生時の「避難支援者」「避難先」「時系列的な避難行動」等をまとめた計画書のことです。また、大津市では、個別避難計画作成のためのチェックリストや作成の手引きなどを作成しています。さらに、大津市では避難行動要支援者の情報を登録する「避難行動要支援者名簿管理システム」を導入しており、避難行動要支援者の情報を基にした個別避難計画の作成を支援しています。以上のように、大津市では避難行動要支援者一人ひとりに合わせた個別避難計画作成を推進するための取り組みを行っています。

2. ALS 患者の避難訓練の実施について

令和5年2月15日、大津市保健予防課、大津市危機・防災対策課、訪問看護師、相談支援専門員、重度訪問介護ヘルパー、瀬田学区自治連合会自主防犯防災会の皆様に参加いただき、4時間にわたる避難訓練および振り返りの意見交換会をしていただきました。

訓練を実施して以下のことに気付きました。

①寝たままの状態の避難患者を乗せるには、リアカーが少し小さい。また、災害時にはリアカーのタイヤがパンクすることもあるのでノーパンクタイヤにしておくが良い。

②担架が無かったので急遽、物干し竿と毛布の代替にして、リアカーの下に備蓄品を置き、その上に担架を乗せたが、担架の底はしっかりと支えられるものを用意できるようにしておいた方がよい。

③医療機器の電源の確保のため、蓄電池が用意できた。大津市は蓄電池を各支所と小学校に全部で73個用意してあるのは良かった。

④夜間に移動することも考えられるので照明器具を用意しておく、また、雨の日もあるのでビニールシートを用意しておく必要がある。

⑤災害時備蓄倉庫にはリアカーは1台あるが、限られた備品であることから、使用するには、誰が借りて何時返すか管理しておく必要がある。

⑥訪問看護事業所間の協力で支援の拡大が期待出来るので、連携システムがあると良い。

⑦自主防災会の方の参加があったので、難病患者の移動方法について要支援者避難の参考にしてもらえたと思う。

3. リアカーを使用した移動支援の注意点について

ALS 患者が気管切開をして人工呼吸器を装着している場合、災害時にリアカーを使用して避難する場合には、以下の点に注意する必要があります。

①避難計画の作成

ALS 患者が災害時にリアカーを使用して避難する場合には、事前に避難計画を作成することが重要です。具体的には、避難場所や避難経路、必要な装備や持ち物のリストを作成し、避難時に必要な手順を確認することが必要です。

②リアカーの準備

避難時にはリアカーを使用して患者を移動することができますが、リアカーが必要な場合には、事前に

リアカーを用意することが必要です。また、リアカーには足が伸ばせるようなスペースが必要ですので、リアカーのサイズを確認しておくことが必要です。

③人工呼吸器の準備

避難時には人工呼吸器を装着している患者に対して、人工呼吸器の充電やスペアバッテリーの用意が必要です。また、避難先で人工呼吸器を使用するためには、電源の確保が必要です。避難場所によっては、発電機を用意する必要がある場合もあります。

④介助者の準備

ALS 患者が災害時にリアカーを使用して避難する場合には、介助者が必要です。介助者は、患者の移動や人工呼吸器の管理を行うことができるように、事前に十分な訓練を受ける必要があります。

以上の点に留意し、事前に計画を立てておくことで、ALS 患者が災害時にリアカーを使用して避難することができます。

4. 避難に用意する物資と避難先について

①避難の際に忘れてはいけないものとして以下のものが考えられます

- ・ 予備の人工呼吸器のバッテリーや充電器
- ・ 消毒用アルコールや消毒用ウェットティッシュ
- ・ 吸引器
- ・ 血圧計や血糖計、酸素飽和度計などの医療機器
- ・ 処方された薬のストック

②避難先では以下のような設備が必要と考えられます。

- ・ 電源が確保されている場所
- ・ ベッドや寝具
- ・ 車いすやトイレ用の手すりなどのアシスト用具
- ・ 訪問看護師や介護士、家族などの介護者の支援

ただし、ALS 患者が気管切開をして人工呼吸器を装着している場合、一般的な避難場所では十分な支援を受けることができない場合があるため、専門の医療機関や施設に避難することが望ましいとされています



QR コードで避難訓練の様子が動画で見られます。

